



助成対象者からの報告

社会的・文化的諸活動助成

モザンビーク共和国

スラムの学舎・寺子屋で パソコンを活用した教育スタート

NGOモザンビークのいのちをつなぐ会 代表

榎本 恵 Megumi Enomoto

>>> 最貧困国の中のさらに貧困エリアで

5.5人に1人が5歳の誕生日を迎えられない地域。

それが当会の活動エリア、モザンビーク共和国カーボデルガド州である。モザンビークは2015年の人間開発指数(HDI)*¹では188ヶ国中180位。依然、最貧困国、後発開発途上国の一つである。中でも北部カーボデルガド州は5歳以下の乳幼児死亡率18%、慢性的な栄養失調率56%*²と、国内でも多くの問題を抱える地域である。

当会の事務局および建設している開かれた学舎・寺子屋は、州都ペンバのナティティ地区。カーボデルガド州最大のスラム地区に位置する。車が行き交う大通りからナティティ地区に入るとそこは別世界。最貧困層の巣窟である。ナティティ地区に住む以前は、富裕層が住むエリアに居住し仕事をしていたのだが、車でほんの10分ほどのスラム地区の内部は足を踏み入れたらいけない場所と忠告されていた。実際に住んでみて、こんな劣悪な環境だったのか…と生活環境の天地の差に驚いたものだ。1メートルほどのゴミが散乱する路地を挟み、木と石と土で作った家が密集し、裸や破れた服の子供たちが遊んでいる。きちんと仕事をもって働いている人たちもいるが、酔っぱらいや娼婦をよく目にする。



事務局の隣家の子供たち



至るところに散乱するゴミ



現在、この地区に住ん

でいる白人(黄色人種

も白人と区分されている)は、私、ただ一人である。

>>> 断ち切りたい無教育の連鎖

モザンビークの経済成長率が7%を走る一方、州都には人が流入し、市場が広がり、貧困格差が広がりつつある。同時に10年前にはまだ守られていた地域のモラルが崩壊し、子供は沢山いるが躰や教育には無関心という親もナティティ地区では特に目立つ。親がいない子供、学校に通ってない子供も私の近所だけでも幾人もいる。

モノを数えられない、片づけない、盗む、嘘をつく。そんな子供たちに愕然とし、この無教育の連鎖をどうにかしなければ、と、道徳を基本にして読み書きや算数、絵描きや工作、傷の手当てなどの指導を2013年からナティティ地区に住む青年有志とともに事務局の庭で始めた。毎日のように子供がやってきては、やりたいことや質問攻めの嬉しく忙しい毎日である。子供には日常的に接する中で、母親のように優しく厳しく躰をしつつ、良い習慣と未来が開けるよう心がけている。この言葉のように。

思いの種を蒔き、行動を刈り取り、

行動の種を蒔いて、習慣を刈り取る。

習慣の種を蒔き、人格を刈り取り、

人格の種を蒔いて、人生を刈り取る。

(サミュエル・スマイルズ)

私自身も毎日の活動で、自分自身を子供たちから磨かせてもらっている。